まちづくりシリーズ②

# 北熊本スマートインターチェンジはいつできるの？

北熊本スマートインターチェンジ（以下、「IC」）の建設については、県や熊本市と連携して積極的に事業を進めています。本市の東西を走る主要道路の延長線上にICができることは、市の活性化につながり今後の発展にも非常に有益になります。

●**問い合わせ先**　政策課　政策班（合志庁舎）
☎248－1028

## スマートインターチェンジってどんなもの？

高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアなどから乗り降りできるように設置されたICです。利用車両がETC搭載車両に限定されているため簡易な料金所の設置で済み、従来のICと比べて低コストで導入できるなどのメリットがあります。

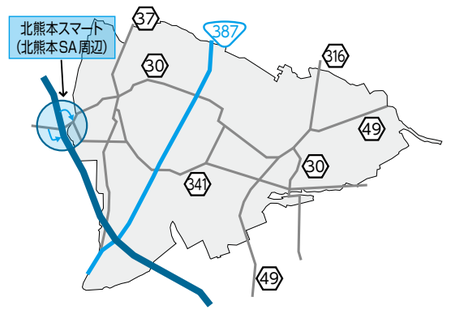
## いつ計画されたの？

平成18年2月に旧合志町・旧西合志町が合併したときに、市のまちづくりの基本となる「新市建設計画」に盛り込まれました。

## どこにできるの？

計画当初は、九州縦貫自動車道の北熊本サービスエリアに設置できないかと検討されていました。

しかし、サービスエリア内が狭く、大型車も含めた全ての車両が通過できる新たなETCレーンを設置するには無理があることから、現在は北熊本サービスエリアの北側への設置が予定されています。




## 本年度完成と聞いていたけど本当にできるの？

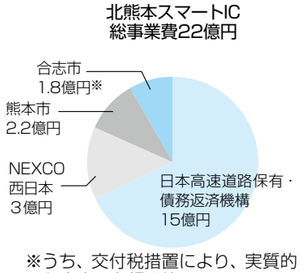
北熊本スマートIC設置に向けて実質的に動き出したのは、植木町が熊本市と合併した平成22年3月以降です。合併して政令市となった熊本市は地区協議会を設置し、平成23年1月には、国に北熊本スマートICを設置するための連結許可を申請。同年3月に国土交通大臣から九州縦貫自動車道への連結許可が下り、ここで初めて北熊本スマートIC設置に向けて事業がスタートしました。

IC設置予定地は熊本市であるため、熊本市では地元説明会や用地交渉などを積極的に行なっていますが、地権者への説明に時間を要しているなど、本年度中の完成は大変厳しいとの結論を表明しています。

## 総事業費や市の負担はどれくらい？

北熊本スマートICが完成すると、市民の皆さんや企業などの利便性向上や、経済の活性化が大いに期待されることから、整備に係る費用の一部負担を市議会で議決しています。

一般の道路から九州縦貫自動車道につながるアクセス道路の整備を含め、総事業費は平成22年度当時で22億円。このうち約18億円を独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構とNEXCO西日本が負担します。そして残り約4億円の55％を熊本市が、45％を本市が負担することになっています。合併特例債などの交付税措置の分を差し引きした実質的な一般財源の負担としては、図のとおりです。



※うち、交付税措置により、実質的な本市の負担は約4,700万円

## 最終的にはいつ完成するの？

当初の予定では本年度中の完成を目指して事業を進めていましたが、完成時期は延長される予定です。

本市としても、費用の一部を負担することが決まっているものの、北熊本スマートICの完成まで何年も待つことはできないため、合併特例債の期限となる平成32年がタイムリミットと考え、熊本市に対してもできるだけ早期の完成を要望しているところです。



合志のいいもの、うまいもの。
合志ブランド認証品が増えました

# ミネソワWソープ

## 株式会社　峯樹木園

合志ブランドとは、合志の豊かな自然の中で生産・製造された農畜産物や加工品などの中から、郷土の特産品として合志市特産品地域ブランド推進協議会が認証する制度です。

先月号に引き続き、5月に合志ブランド認証品となったもう一つの商品、峯樹木園の「ミネソワWソープ」を紹介します。

峯樹木園からは、すでに桑の葉茶や桑の葉にゅうめんが認証されていますが、今回、シルクと桑の葉で作った洗顔石けんが新たに加わりました。

## シルクと桑の葉から生まれた肌に優しい洗顔石けん

シルクの主成分はタンパク質です。人の体を構成する20種類のアミノ酸のうち、共通する18種類がシルクのタンパク質にも含まれています。そのため、シルクは人の肌に優しく、潤いを与え、皮脂を取りすぎることなく肌を洗浄します。

また、桑の葉の成分には抗酸化作用があり、酸化による肌のダメージを抑えます。

## カイコに着目・養蚕方法の見直し

桑はミネラルや鉄分が豊富で、カルシウムは牛乳の約20倍と言われています。峯さんは約10年前から桑の機能性に引かれ、健康をテーマに桑とその関連商品を作ってきました。無農薬の土づくりなど安全性に気を付けていましたが、それは桑を餌とするカイコにも安心・安全であることに気づき、3年前から養蚕事業の構想を練り始めました。

しかし、元来の養蚕は1日3回の餌やりなど毎日の世話が大変でした。かさむ人件費も生産者不足の原因といわれ、峯さんにとっても養蚕方法の見直しが大きな課題となっていました。

## 世界初・無菌養蚕システムで育まれたカイコ

新しい養蚕方法を模索する中で出会ったのが無菌養蚕システムです。カイコの無菌飼育について約30年前から研究している京都工芸繊維大学と連携し、峯樹木園が世界で初めて実践。これにより、餌やりの回数は25日間に3回という省力化を実現しました。また、無菌室での飼育によりカイコが病気にかからず健康に育ちました。さらに、桑の葉や大豆などを混ぜた人工飼料で育てたカイコの繭は、時間がたっても変色せず、高い品質のシルクのままです。

（株）峯樹木園
代表取締役　峯 隆吉さん（67）
野々島4393-54　☎242-1045
※ミネソワWソープは物産館「弁天」などで販売中（1個3,800円前後）

## 養蚕を地場産業として地域おこしにつなげたい

「養蚕は、地域の産業として根付けばカイコ・繭・糸・織物・桑をつくる人、それらを出荷する人など、さまざまな雇用を生む。また、力仕事ではないので年配の人もできる。人の健康につながるものを作りながら、桑やカイコを通じて地域全体で産業を盛り上げていきたい」と語る峯さん。

よりよいものを常に追い求め、地域に根差したチャレンジ精神でさらに先の未来を見つめています。

●**問い合わせ先**
商工振興課（合志庁舎）
☎（248）1115